

## 『詩と音楽』執筆者索引

- 凡例
1. 執筆者名は、個人・団体をふくめてすべて収録し、五十音順に配列した。
  2. 執筆者が略称を併用している場合、略称を執筆者名のうしろの( )内に収めた。
  3. 原文に表示されていない作品の連載回数、翻訳などは〔 〕内に注記した。
  4. 原文の旧漢字は原則として常用漢字にあらため、かな書きは原文のままとした。
  5. 作品名の次の数字は、作品が掲載されている巻号を示す。  
例：II-1→第2巻第1号

大阪音楽大学永川記念館	
931128	
登録済	

大正の光と影 「詩と音楽」別巻

1993年10月18日発行

©編集者 (財)日本近代音楽財団  
日本近代音楽館

印刷所 株式会社 平文社

発行者 久保昭男

発行所 久山社  
〒113 東京都文京区本郷1-5-7  
電話 03-3812-0253

\*落丁本・乱丁本はお取替いたします。

日本音楽著作権協会(出)許諾第9371620-301号

【あ行】

アルス 謹告 II-9  
 芥川龍之介 わが散文詩(秋夜 椎の木  
 虫干) I-3  
 足立源一郎 北欧に於けるフランスの芸術  
 映響 I-2  
 アンリイ・ルウッソの喜劇  
 I-4  
 オディロン・ルドンの手記 II-1  
 石井 漢 私の舞踏観 I-1  
 井上種伸 い、月夜 紅の唇 老眼鏡 断  
 章 II-4  
 岩佐頼太郎 安楽椅子 夏 I-1  
 爆発装置 一種の悲喜劇 I-2  
 人間呼吸の壮观 I-3  
 男と女と I-4  
 闇黒の歌 寂しき悪魔 II-1  
 冬は夢を喰べ 室内 雪の嘆美  
 あくびと溜息 II-3  
 或る一場面 巻煙草くはへて  
 II-4  
 二人 たのしい予定 春の朝  
 願 II-5  
 愛の思想 あけ放した窓 必要  
 な時刻 神と現実 II-6  
 たのしき夕暮 遠方 朝貌 II-9  
 岩村英武 American Southern Synco-  
 pated Orchestra II-6  
 受川宵夢 薔薇讃頌詩篇(薔薇静思 園丁  
 の語 明日) II-1  
 牛山 充 テムポルバート論(上)〔訳〕  
 I-1  
 パデレフスキーのテムポ・ルバ  
 ート論(下)〔訳〕 I-2  
 民衆と音楽に於ける国民性との  
 関係(上)(下)〔訳〕 I-3, 4

伊太利亜の民謡〔訳〕 II-1  
 梅津勝男 トルストイと音楽 I-2  
 音楽について書く事 I-4  
 管絃楽小論の一章〔訳〕 II-7  
 浦瀬白雨 イマジストの詩とキウヒスト  
 の詩〔訳〕(ロンドン 内に  
 叫ぶ声々 際限なく) II-5  
 緑の交響楽〔訳〕 II-6  
 大木篤夫 焦心(小曲 焦心) I-1  
 ふるさと 哀傷篇 究極〔訳〕  
 I-2  
 瞬間 死んだ娘〔訳〕 I-3  
 風、光、木の葉(心虚しく 言  
 葉 蛾 秋昼 霊性の芽 夜  
 の霧の音楽 憂鬱) II-1  
 清浄な孤独 日没の雪路に 見  
 なれた風景 冬薔薇 冬のす  
 みれ 柊の花 鶯笛 朝茶  
 竹馬 II-3  
 早春小景(茨の芽 明日の花  
 枯れすすき 雪折れの竹 青  
 木 棕の実) II-4  
 野茨の道(野茨の道 野あそび  
 日の暮れ こぶしの花 旅が  
 へり 雪後 日だまり 枯木  
 街道 芹の根 ひづめの跡  
 べんべん草 小魚 むかし)  
 II-5  
 春来れば 野の羊 溝のあちら  
 水馬 ひなた 親しい花 II-6  
 小曲 旅 あかり 小曲 II-7  
 新しき使徒ジョヴァンニ・パピ  
 ニ II-7  
 明日の花 II-7  
 遠い母に 寝ざめ II-9  
 大手拓次 仏蘭西薔薇の香料 蜘蛛のをど  
 り 年寄の馬 白い狼 I-1

夏の夜の薔薇 疾患の僧侶 I-2  
 古い真鍮の壺 野のチューリッ  
 プ〔訳〕 I-3  
 青狐 Tubereuse(月下香)の  
 香料 洋装した十六のむすめ  
 林檎料理 まるい鳥 恋 郡  
 の市場〔訳〕 I-4  
 断崖の鳥(をとめの顔 ねむり  
 断涯の鳥 わらひのひらめき  
 うなだれた花) II-1  
 香料の顔寄せ 香料の墓場 支  
 那薔薇の悪行 霊の食器 つ  
 めたい春の憂鬱 木製の人魚  
 わかれることの寂しさ II-3  
 かなしめるチューリップ(なや  
 める薔薇 かなしめるチュ  
 ーリップ 水のおもてのこゑ  
 髑髏の花 かなしみ 死人の  
 舟 さびしい恋 旅人のうた  
 旅のひと) II-4  
 椅子に眠る憂鬱 うづまく花  
 山のうへをゆくこゑ 窓をあ  
 けてください あをざめた薔  
 薇 薔薇の狂気 II-5  
 まぼろしの薔薇 II-6  
 十四のをとめ わかれ 真黒な  
 水の上の月 II-7  
 大中寅二 内心〔楽譜〕 I-4  
 川辺の月〔楽譜〕 II-1  
 わが世の果ての〔楽譜〕 II-6  
 湧く涙〔楽譜〕 II-7  
 多 忠朝 雅楽に就て I-1  
 大橋房子 耳なきものへの音 II-1  
 小方又星 フランシス・ジャム抄〔訳〕  
 もし君が…… 家が薔薇で一  
 杯だつたら…… 私はお前を  
 愛する…… II-5

小倉末子 ピアノのトーンに就いて II-1  
 小山内薫 アンナ・パウロワに与ふる歌  
 I-1  
 尾山篤二郎 東夷戯咲篇 II-8  
 恩地 孝〔表紙装幀〕 I-1  
 装幀雑談 II-7

【か行】

河井醉茗 美食地獄 さびしいお山 I-1  
 二人となれば I-3  
 船に凭れて(船の蔭 まともに  
 赤い韻律) II-1  
 乾いた砂原(枯野 軽い火 乾  
 いた砂原 波のあばれる晩  
 高三隆達 雪の松原) II-4  
 詩評 II-5, 6  
 詩の思ひ出 II-7  
 魂は滅びんとするに II-9  
 川上澄生 竹籥の風 朱の月 II-1  
 冬の雨上りの女学生の足 片恋  
 II-6  
 川路柳虹 美術巡礼(梅原龍三郎氏の裸体  
 習作展覧会「春陽会」と「ア  
 クション」の旗上げ) II-3  
 美術巡礼(遠山五郎氏の滞欧作  
 品 明治絵画館の壁画問題  
 二科展を巴里で開くといふこ  
 と) II-4  
 美術巡礼(仏蘭西現代美術展覧  
 会 アクション展覧会 この  
 他) II-5  
 美術巡礼(春陽会を見る 独逸  
 現代美術展覧会) II-6  
 美術巡礼(浮世絵版画展覧会  
 小展覧会について 中央美術  
 展の参考品) II-7

北原白秋 (白秋)

- 芸術の円光 I-1  
 斜丘の夏 (浅宵 祭のまへ 祭 (民謡) 祭のあと ある宵の 童心 すみつちよ 夏野 かなかな 朝 蜂の子) I-1  
 赤い瓦の家より (一) (詩へ ある作曲家に 歌詞と作曲 芭蕉俳句研究 森鷗外先生) I-1  
 鷺ペン I-1~4, II-1~6  
 芙蓉の季節 (初秋の朝飯 初秋の庭 山寺の初秋 庭の一部 葉鶏頭 初秋の夜 初秋の空 夜の二時) I-2  
 考察の秋 (処女のごとく立つ 詩であるか 抒事詩であるか 粗雑なる表現の一例 かやの実 詩と俳句 (一) 詩と俳句 (二) 民謡と俳句 月に 開く窓 短唱と俳句 短歌と俳句 言葉の遊戯か 真珠抄 余滴 偽物) I-2  
 木兎の家より I-2  
 六騎 I-2  
 BAN-BAN (笛と雀 百舌きちあ の鳴る銅羅は BAN-BAN 白芥子 AIYAN の春 樞紅葉) I-3  
 山房主人手記 I-3  
 赤い瓦の家より (相手を選ばぬ 理由 再び芭蕉俳句研究について 詩の尊さ 民謡について 麗かやの事 訂正その他) I-3  
 かやの木山 蟹味噌 I-3  
 花咲爺 (虎の煙草 むねむり王

- さま 竹取りの翁 花咲爺さん 川上 げんげ田) I-4  
 考察の冬 (再び民謡について 詩の外道を排す 追記) I-4  
 弱陽の崖 (白菊 同じく四首 草の穂 かやの実 藤椅子の上 葉鶏頭の種子 弱陽 冬晴 月と孟宗 榧と栗 百日紅 このお父さ 菊の花 寺の鶏 唐黍 茗荷の宿 磯寺) II-1  
 黍明の考察 (時代相と民謡 読む民謡とは何か 弄斎について よいもの拾うた) II-1  
 童謡私鈔 II-1  
 かぐや姫 II-1  
 円光の智者 II-2  
 水墨集 (長詩六拾老篇)  
 竹林の七賢 李思訓 蘭亭の遊び 老子 王摩詰 竹里館 林泉の空 王維の雪景 雪中の芭蕉 山峽の良夜 雪中思慕 雪溪の気品 雪江 白菊 童と父 詩作のとき 千利休 句会 落葉 境崖の蹟 竹田 水墨牡丹 南画中の半日 鷹 短日 時雨 雪晩 夜雨来る 寒梅余香 晩涼 やや遅い月の出 翁 落葉 山中消息 寒山拾得 渡り鳥 山岨 終日風あり 冬晴 晩闇 満月の入り 露 茶の花 銀杏 蘆雁 鯨の来る頃 ある初冬の朝 榧の木 木のあたま 枯木 輝くもの 虎 枯野 白虹 潮鳴の夜 我子に 金屏の歌 初蛙 江の島 II-2

- 雪煙 (雪に立つ竹 雪後の曇り 雪後の声 雪後 冬至前後 早春の夕景) II-3  
 半島の早春 (三崎吟行、百三十七首) II-3  
 早春の行楽 (短歌百九十三首) 箱根山麓の歌 多摩川上流の歌 II-4  
 赤い瓦の家より (どんぐりの言葉 父子草母子草) II-4  
 沖の小島の II-4  
 出舟 II-4  
 山荘の晩春 (短歌七十五首) II-5  
 金粉の霧 (おだやかな冬 早春の朝飯 落葉松林の中 馬月夜) II-6  
 赤い瓦の家より (島木赤彦氏に) II-6  
 搦布とたんぼぼ II-6  
 童話の月 こどりのひな 冬の 日 かげ II-7  
 初夏の印幡沼 (八十二首) II-7  
 赤い瓦の家より (詩集水墨集の跋) II-7  
 山荘にて II-7  
 信濃高原の歌 (新作二百六十七首) 落葉松林の中に (其一) 放牧の絵馬 七久里の蔭 農民美術の歌 II-8  
 どんぐりの言葉 II-8  
 泣かまほしさに II-8  
 芙蓉木 (震災前記) II-9  
 秋声十六篇 (秋立つ浜 白い月 月と童 なのりそ 母と子 犬藜の道 かまつか 月夜孟

- 宗の凶 句の秋 秋の夜 蛾 秋 鷹匠 雲水 豊千 彼) II-9  
 山荘より (このごろのこと この夏のこと 歌壇のこと 新進推薦号のこと 木兎の家訪問記のこと) II-9  
 再び山荘より (震災について 吟行のこと 訂正 アルスより) II-9  
 おろかしく II-9  
 木村荘八 近頃の心事 II-1  
 ベートフェンの盤 II-5  
 入選画小感 II-6  
 久野豊彦 魂の顔 幻想 秋 II-1  
 倉田白羊 自分の極め込みについて II-6  
 小穴隆一 秋色 II-1  
 秋色 心葉 II-3  
 李太白のお舟 (螢 帽子 魂 まんじゆしやげ じやんけん) II-4  
 煙草 (答人 樹木落葉 煙草) II-5  
 雨中山吹 (雨中山吹 閑居懐旧) II-6  
 偶興 贈澄江堂 贈晴清 II-9  
 小泉 洽 近代自由音楽派の先駆者サテとその怪奇 II-5  
 古泉千榎 沼畔雑歌 II-8  
 小杉未醒 画人語二則 I-1  
 古支那人の言葉 II-5  
 近衛秀麿 ふなうた [楽譜] I-2  
 手紙——ストコフスキーの「タンノイザー」序楽其他 II-3  
 小松耕輔 新世界の音楽 (一) (二) II-8, 9  
 近藤 東 帆船 月光騎士 II-4

近藤拍二郎 POEME-NOCTURNE〔楽譜〕 I-1

【さ行】

犀東日路士 仏蘭西古典詩歌集〔一〕  
古き世の美姫を哀しむの吟  
咏 死と樵夫 ホラチウス  
に〔訳〕 II-4  
仏蘭西古典詩歌集〔二〕  
碑文 SONNET 物みなつ  
かれ果つ II-5  
仏蘭西古典詩歌集〔三〕  
SONNET ポール・スカア  
ロンが自撰の碑銘 SON-  
NET II-6  
斎藤佳三 知れたものである I-2  
佐々木高吉 月と笛 II-4  
佐藤惣之助 異風琉球歌（聞得大君 琉球  
娘仔歌 君南風 雨中心  
異境の鬼 辻町雨月 ちる  
に贈る 悪按司 古甕歌）  
I-3  
近事雑且（深き夢よりさめて  
Oといふ村で 新らしい聖母  
春風 花嫁の室 目ざめ 快  
楽 雪に書く） II-2  
風のやうに（帰去来 小心 羞  
恥 神秘 冬 春暁 粗野に）  
II-4  
ピカソとルドンとゴヤに（道化  
役者 西遊記の一節 格闘）  
II-5  
東洋風なる（豪華な酒の後 波  
斯男の幻想 東洋風なる一  
隅） II-7  
木の葉に書いて（伊丹で 近松

寺にて 伊賀上野 榎原をす  
ぎる 吉野山 吉野川 壺坂  
寺 新薬師寺 法隆寺 紀三  
井寺 富山の祭の日に） II-9

山宮 允 英詩新調（熱帯の月 冬の月  
HOKKU 市俄古）〔訳〕 I-1  
本草詩鈔（ぼぶら ぼぶら 蝦  
夷松）〔訳〕 I-2  
林檎の木 きささげ 松〔訳〕  
I-3  
杉 松 竹 II-9  
詩と音楽編輯部 詩歌第一回公募 II-8  
柴田勝衛 音楽批評と新聞 I-2  
ジョン・ノオ・ヘンレエ  
Merry Englandから（一）（二）  
（三） I-1~3  
伊太利花の都から（一） II-7  
杉田實義 木兎の家訪問記〔訳〕 II-9  
鈴木賢之進 門馬直衛翁の自家撞着を指摘  
し合理的弁明を望む II-4  
ベートーヴェンの片眼 II-5  
童謡作曲家に II-6  
勝利者としてのショパン〔訳〕  
II-7

添田英二 秘密の供物 II-1

【た行】

高倉 輝 ハアトの女王 II-6  
京都 II-7, 9  
高原 正 ふえ〔謡〕 II-9  
滝沢真弓 ギリシヤの柱 I-1  
竹内隆二 幻像 II-6  
竹友漢風 登場人物（教師 詩人） I-1  
エドワード・トマス I-1  
ラルタア・デ・ラ・メイア I-3  
エドワード・トマス（追記） I

-4

トマス・ハアディの詩 II-2, 3  
水夫の歌 II-5  
小さいもの II-6

竹中 郁 幻の蜃気楼 山峽の菊畑 雑木  
山 朝 II-1  
田中善之助 春の断想 II-7  
棚夏針手 不毛 II-1  
田辺尚雄 民謡に就いて I-1  
八重山群島の民謡 I-3  
玉置光三 童謡三篇（エス様と二人の子供  
水と空気の爺さん ヨブの爺  
さん） II-1  
童謡二篇（縦の児のゆめ 雁と  
菜々） II-6  
茅野蕭々 人々の歌（盲人の歌 自殺者の  
歌 孤児の歌 コロンナ家の  
人々）〔訳〕 I-2  
異曲秘抄（一）  
悩み 静寂を祈る 死 夜半  
さまよふ声 老僧〔訳〕 II-1  
異曲秘抄（二）  
お前の静な眼の中に…… 我  
等の眼は…… 花束の中 エ  
リザベト 黒い騎士〔訳〕  
II-3  
辻 潤 螺旋道（一）（二）（三）〔訳〕  
II-5~7  
閃光〔訳〕 II-9  
土田杏村 芸術の気品 II-5  
「三田文学」の作品 II-6  
啞者の言 II-8  
非文壇作家——文芸時評 II-9  
土井晩翠 アン・デン・グロウセン・アイ  
ンシュタイン II-3  
戸川秋骨 ドン・ジュアン号の沈没の前後  
I-4

外山國彦 邦語歌曲私見 I-1

【な行】

長尾業枝 朝の四時 杓冠 II-3  
市へ II-4  
長尾 豊 風と波 草のうた II-7  
長岡義夫 民謡及び聖楽時代の露西亞音楽  
I-3  
プーシユキンの歌劇 II-1  
ジブシイの唄 II-6  
中川一政 自分の考へた事 II-5  
永田龍雄 ストラウヴィンスキイ論 I-1  
イサドラ・ダンカンの舞踊 I-2  
欧州に於る詩及舞踊の新運動  
II-1  
露西亞舞踊とニジンスキイの地  
位 II-5  
重きもの、克服〔訳〕 II-6  
踊業柏木市猿の言葉 II-7  
長田秀雄 月光紅娘曲 II-8  
港の歌（鶯鶯） II-9  
長妻政二郎 早春〔楽譜〕 I-4  
中西悟堂 竹館奠情（竹里館 泰林祭） II  
-7  
中山 啓 孟宗の藪 II-5  
布谷 秀 早春小景 六甲風 みどりの声  
II-5  
病身の風景（丘の蜜蜂 病身の  
風景） II-6  
野口米次郎 貧しい一燈 その他（貧しい  
一燈 半生 催眠歌 夫に  
対する一婦人の言葉） I-1  
京都 夏の末 一会話 I-2  
弱者の涙（『だが……』 弱者の  
涙 最後の舞踏） I-4  
永劫の海 焦点 砂時計 II-1

煙草の火 傍観者の暴力 II-2  
朝の七時 花 歌の声 II-4

【は行】

灰野庄平 児童と詩 (一) (二) (訳) I-1, 3  
萩原朔太郎 仮名と漢字 (併せて内容と形式との関係) II-4  
酔茗詩集を読み Ⅱ-4  
橋田東声 五月の水郷 (印旛沼の歌) II-7  
鯉の巢 (印旛沼の歌) II-8  
長谷川昇 ポール・ゴーガン I-1  
読書 (口画) II-6  
アンリ・マチスに就いて II-7  
畑 耕一 詩に現はれた性的象徴 I-1  
宝石の謎と詩 I-4  
未開人の恋愛詩 II-1  
英詩一口噺 II-4  
畑 敏一 民謡の流行に就いて I-3  
服部龍太郎 異国へ移された歌劇 I-4  
ドビュッスイとその音楽 II-4  
馬場二郎 シオパンの音楽 I-1  
春山行夫 ある日窓を開いた ころの旅  
飯萬の小景 II-1  
故郷の詩篇から (故郷 山にのばる 柚子の実 月) II-6  
日夏耿之介 愁界 I-1  
平木二六 しぐれと頬白のお話 II-1  
寂しい白熊の子ども II-4  
食卓に対ふ II-5  
地中へ II-6  
平田禿木 勅選詩宗はこの人——有明詩集  
を読み Ⅱ-4  
藤井清水 民衆と音楽 I-1  
沖の小島の〔楽譜〕 II-4  
出舟〔楽譜〕 II-4

水夫の歌〔楽譜〕 II-5  
搦布とたんぼぼ〔楽譜〕 II-6  
泣かまほしさに〔楽譜〕 II-8  
藤沢衛彦 童謡民謡と其音楽舞踊 I-3  
藤森秀夫 リヒャルト・デメル〔訳〕  
夏の夕 憂悶の胸より 墓  
静かな歩み II-4

二見孝平 (二見生)  
雑記帳 I-1  
新音楽美学草案(一) (二) (訳)  
II-1, 2  
編輯者 無題 II-3  
編輯後記 II-5, 7~9  
穂積 忠 茶の株 I-4  
冬の薔薇 II-4

【ま行】

前田三男 「ドン・ファン」の印象 I-1  
虐殺された名曲 I-2  
未完成スィムフォニーの印象 I-4  
ブラームスの第三スィムフォニー II-1  
音楽発達史の鳥瞰図 II-2  
新世界スィムフォニーの印象 II-6  
英雄交響曲の批判的研究 (一)  
(二) II-7, 9  
前田夕暮 半島の早春 (三崎吟行、七十七  
首) II-3  
雪と枯草 (短歌百十三首)  
天神山と荻窪村 雪と枯草  
II-4  
三崎拾遺集 II-4  
牧民次郎 月の出 II-1  
牧野 律 消息 (消息 高原初冬) II-3  
まづしきゆふげ (夕餉 麦の芽

春のかゝやき 三月 春愁)  
II-4

松島森子 NOCTURNE〔楽譜〕 I-2  
三木露風 涼しい雨 小鳥と蝸牛 I-1  
病める薔薇 I-1  
短章五首 (青嵐 空の雲 よし  
きり 朝 宵の闇) I-2  
ふなうた I-2  
狸橋 I-3  
木の洞 内心 早春 I-4  
善き朝 (暁 初秋の真昼 善き  
朝 暮れの一瞬) II-1  
川辺の月 II-1  
詩論 II-2  
ふるさとの II-2  
わが世の果ての II-6  
短唱 II-7  
湧く涙 II-7  
夕の一時 静寂 短唱 II-9  
三島章道 ディアギレフの片影 I-1  
キアスリーン・バーロー嬢を聴  
いた夜の印象 I-2  
ロシアン・バレエの考察〔訳〕  
II-4  
宮原禎次 ふるさとの〔楽譜〕 II-2  
室生犀星 竜 驢馬 I-1  
忘春 鯉 樹を眺む ころろ  
I-1  
我が家の花 (笛 溜息 夜半  
靴下 我が家の花 あきらめ  
のない心 最勝院自称童子  
童子 おもかげ 五月幟) I  
-2  
帰りを花を見る 蛾と母親 退屈  
な舟あし 小鳥だち かもめ  
の青い斑点 柿 I-3  
続 我が家の花 (衣をわかつて

いづこに 秋の水溜り) I-3  
白秋山房訪問記 I-3  
菊を彫る人 風邪 新衣 寒竹  
枳殻 I-4  
秋日小品 (鶏頭 ゲニーネ 父  
美玉の王 至聖林 寒竹) I  
-4  
夕餉のしたくはまだできぬか  
支那風な景色 冬のかげらふ  
冬日を呼ぶ II-1  
魚眠洞小品 (刀の鏝 水仙花  
元朝 山門 一帖の原稿紙)  
II-1  
黄ろい臘石 (黄ろい臘石 わが  
心もかくあれと 寒竹 果物)  
II-2  
みづうみ (一) (二) 三, 四 II  
-5~8  
本沢浩二郎 蔭の臺 竹林 旅ゆく II-4  
私の靴は重い 煙 青き芽 II-5  
森田恒友 画室雑録 (完成と未完成 南画  
の殿将) I-2  
紙本墨画 II-2  
展覧会場の心持 II-6  
草上二童 (口画) II-6

【や行】

矢野文夫 ボオドレエルの死の思想 II-5  
矢野峰人 祈禱 心理学 悔罪者〔訳〕 I  
-1  
解剖学 悪しき園丁〔訳〕 I-3  
童謡試論 I-3  
詩論二篇 (暗示と象徴 詩と散  
文) II-1  
散文詩の領域 II-3  
自由詩雑話 II-9

矢部 季 あるもの、不可思議 II-5  
 山崎省三 春陽会場にて II-6  
 山崎 斌 13の女 II-7  
 山田耕作 (耕作)  
 作曲者の言葉 I-1  
 欧米楽壇の一瞥 I-1  
 VARIATION I-1~3  
 病める薔薇 (楽譜) I-1  
 欧州交響楽の菱形的趨勢 I-2  
 作曲者の言葉——日本の作曲者  
 に I-2  
 六騎 (楽譜) I-2  
 作曲に於ける詩文と散文 I-3  
 作曲者の言葉——童謡の作曲に  
 就いて I-3  
 かやの木山 狸橋 蟹味噌 (楽  
 譜) I-3  
 音楽の法悦境 I-4  
 作曲者の言葉——指揮に就いて  
 I-4  
 Variation I-4, II-1~3  
 木の洞 (楽譜) I-4  
 総合芸術より融合芸術へ II-1  
 Una Opera Dada II-1~6  
 作曲講座 音階に就いての私照  
 II-1  
 かぐや姫 (楽譜) II-1  
 歌謡曲作曲上より見たる詩のア  
 クセント II-2  
 レオ・オルNSTEINの印象  
 II-2  
 小野小町 和泉式部 (楽譜) II  
 -2  
 舞踏詩劇 マクダラのマリア  
 II-3  
 リヒアルト シトラウスの印象  
 II-3

二條院讃岐 式子内親王 右近  
 (楽譜) II-3  
 現代二大作曲者の片影 (エルネ  
 スト・プロッホ セルゲイ・  
 プロコフィエフ) II-4  
 フリッツ クライスラーの片影  
 II-5  
 黄昏のインテルメッツォ II-6  
 Variazioni II-6  
 明日の花 (楽譜) II-7  
 ラマニーノフの影像 II-8  
 九州楽旅 (上) II-9  
 ヤシヤ・ハイフェッツ君に II-9  
 廃墟に立ちて II-9  
 おろかしく ふえ (楽譜) II-9  
 山本 鼎 美術界月抄 I-1~3  
 春陽会 II-6  
 結城純一 PAUL VERLAINEの詩章を  
 歌詞とせる CLAUDE DE-  
 BUSSYの歌曲に関する断片  
 的なる二三の考察 II-7  
 吉植庄亮 ふるさと II-7  
 踊 II-8  
 吉田一穂 運命 (声 母 運命) II-3  
 吉田白嶺 「雲崗石仏寺菩薩像」に就いて  
 II-4

アルストン、メイドライン  
 児童と詩 (一) (二) I-1, 3  
 イルビング、ミンナ  
 青狐 Tubereuse (月下香) の  
 香料 洋装した十六のむすめ  
 林檎料理 まるい鳥 恋 郡  
 の市場 I-4  
 ウイバア、マックス  
 内に叫ぶ声々 際限なく II-5  
 ヴィヨン 古き世の美姫を哀しむの吟味  
 II-4  
 碑文 II-5  
 ヴォルテエル  
 ホラチウスに II-4  
 グラマンク 漁する舟 (口画) II-5  
 オールデインタン  
 ぼぶら I-2  
 オウルデイントン、リチャアド  
 ロンドン II-5  
 カウルバッハ、フリードリヒ・アウグス  
 ト・フォン  
 ムーズイカ (口画) II-2  
 ガントレット、エドワード  
 ウェールス民謡に就いて I-3  
 クローファド  
 ぼぶら 蝦夷松 I-2  
 林檎の木 きささげ 松 I-3  
 コンクリング、ヒルダ  
 古い真鍮の壺 野のチューリッ  
 プ I-3  
 サンドバアグ、カール  
 市俄古 I-1  
 シトウエル、エディス  
 ロシアン・バレーの考察 II-4  
 ジャム、フランシス  
 もしも君が…… 家が薔薇で一  
 杯だつたら…… 私はお前を  
 愛する…… II-5  
 ジュレエ、サエン  
 SONNET II-6  
 ショルツ、ギルヘルム・フォン  
 さまよふ声 老僧 II-1  
 スカアロン、ポオル  
 自撰の碑銘 II-6  
 スコット、イーヴリン  
 熱帯の月 冬の月 I-1  
 ダウテンダイ、マックス  
 お前の静な眼の中に…… 我等  
 の眼は…… 花束の中 II-3  
 ティース、フランク  
 重きもの、克服 II-6  
 デスバ、エミール  
 ふるさと 哀傷篇 究極 I-2  
 デポルト 物みなつかれ果つ II-5  
 デメル、リヒアルト  
 夏の夕 憂悶の胸より 墓 静  
 かな歩み II-4  
 ド ガ 踊子 (口画) II-5  
 パデレフスキー  
 テムボ・ルバート論 (上) (下)  
 I-1, 2  
 ハネカー、ジェムス  
 勝利者としてのショパン II-7  
 バナンノ、ラオウル・エッセ  
 伊太利亞の民謡 II-4  
 ビヤズレー、オーブレ  
 イゾルデ (口画) I-4  
 ヒュネクア (ヒュネカア、ヒュ・ネカア)  
 螺旋道 (一) (二) (三) II-  
 5~7  
 閃光 II-9  
 ヒルキン、イワン  
 祈禱 心理学 悔罪者 I-1  
 解剖学 悪しき園丁 I-3

フオール, ボオル  
死んだ娘 I-3

フォンテーヌ, ラ  
死と樵夫 II-4

フレチア, ジョン・グウルド  
緑の交響楽 II-6

ヘツセ, ヘルマン  
エリザベト 黒い騎士 II-3

ベレエ, デュ  
SONNET II-5

マクドウエル  
民謡と音楽に於ける国民性との  
関係 (上) (下) I-3, 4

メーボン, アルベール  
木兎の家訪問記 II-9

モークレル, カミイユ  
瞬間 I-3

リツサウエル, エルンスト  
悩み 静寂を祈る 死 夜半  
II-1

リルケ 人々の歌 I-2

ルドン, オデイロン  
PETITE MADONE (口画)  
II-1

ローウエル, エイミ  
HOKKU I-1

ロンサアル SONNET II-6

Zeichnung von Willy v. Peckerath  
BRAHMS AM KLAVIER II-5